

あくていぶ



わがまちたかつき
切り絵紀行

「摂津峡ハイキングコース・白滝」

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

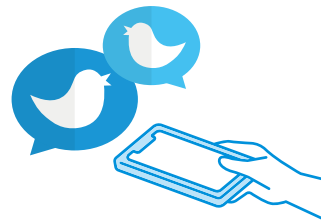
特集

コロナ禍のいま…

ちょっとまって、そのつぶやき！

コロナ禍のいま…

ちょっとまって、そのつぶやき!



さらなる感染拡大が懸念されている新型コロナウイルス感染症「COVID-19」。感染拡大防止のためマスク購入に多くの人が殺到し、つい最近まで店頭での品薄状態が続きました。加えて春先にメディアやSNS上に「ティッシュペーパーやトイレットペーパーが今後品薄になる」とデマ情報が流れたことで、オイルショックの再来かと思うような紙製品の買い占めが急増した結果、しばらく店頭から商品が消えました。

現在、多種多様なSNSが存在し、誰でも簡単に意見を発信できる便利で楽しいツールですが、ちょっとしたつぶやきが、簡単に一方通行で全世界に拡散されてしまいます。今回、紙不足という不確かな情報を「早く伝えなくちゃ」という、ひとりよがりの使命感に駆られて一気に拡散されたことで、多くの人が正しい情報と受け止め、惑わされてしまいました。

風評被害…根拠のない噂のために受ける被害のことをいいます。東日本大震災に伴う福島第一原発事故から9年が経った今も、被災地農畜産物の放射能汚染が続いているような誤解から、不安な印象が消えていません。人の噂も75日…ということわざは風評被害には通じないようです。

今回の新型コロナウイルス感染症流行に伴う混乱は、地震などの自然災害と同様で、社会的・精神的不安がもとでパニック的な反応がおこり、ウイルスなど見えない不安に対し、見えているもの、例えば特定の国家やクラスターが生じたとされる集団を排斥・差別するといった極端な行動につながりました。感染者が発表された地域、年齢、性別から個人が特定された方や、医療従事者とそのご家族に対し、心無い言葉や脅

迫、嫌がらせなど人権が無視される事態に発展しました。30人の院内感染が発表された京都・堀川病院が実施した医療スタッフへのアンケートによれば、回答者146人中84人が誹謗中傷を受けたと答えています。世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルス感染症に関するデマが拡散することで信頼性の高い情報が埋もれ、買い占めや人種差別、命に関わる事故などが起きると警鐘を鳴らしています。米国では抗マラリア薬に新型コロナウイルスの治療効果が期待できるという不確かな情報が出回り、自己判断で服用した男性が死亡する事故も起きました。

昨年12月に開催された人権週間記念事業「人権を考える市民のつどい」で講演いただいたスマイリーキクチさんは、ネット上で殺人犯という身に覚えのないデマを書き込まれ、約10年間にわたり誹謗中傷されました。その経験から、①情報の真意を確かめる事 ②情報を書き込んでいるのは匿名の他人であることを忘れない事 ③判断力が低下した（違和感、あるいは怒りの感情があった）時ほどすぐに判断せず、その情報を寝かせることが、自分がデマを広げる加害者にならない方法であると伝えました。画面の向こう側の顔も知らない人となつながらときは、自分の言葉に責任をもち、相手の気持ちをしっかり考えようと言葉を残されました。

根拠のない思い込みや偏見、先入観で差別することは人権侵害につながります。こんな時だからこそ、相手を思い、この困難を乗り越えていきましょう。

一日も早く平穏な日常が戻りますように。

* コロナ禍とは…

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が招いた危機的・災厄的な状況のことで、社会的・経済的な、混乱・不安・損失などを総称した言い方として使用しています。

人権について困ったことがあれば…

ひとりで悩まずに、ご相談ください

様々な人権問題に関する相談はこちら

みんなの人権110番
0570-003-110



いじめ・虐待など子どもの人権の相談はこちら

こどもの人権110番
0120-007-110



セクハラ・家庭内暴力など女性の人権の相談はこちら

女性の人権ホットライン
0570-070-810



外国語での人権の相談はこちら（10言語対応）

外国語人権相談ダイヤル
0570-090-911



* 出典：法務省人権擁護局ホームページ（<http://www.moj.go.jp/JINKEN/index.html>）

人権週間記念事業

人権を考える市民のつどい
ともに幸せに暮らせる社会
～つながりたいひろがりたいともに生きたい～

★パネル展

「障がいてどこにあるの？ ころと社会のバリアフリー」

日時：令和2年12月11日（金）～12日（土）午前10時～午後5時

★記念講演会

すみだ こういち

住田 功一さん（元NHKアナウンサー・
「関西発ラジオ深夜便」アンカー）をお迎えして



「障がいを持つ娘とともに歩いて見えてきたこと」

日時：令和2年12月12日（土）午後2時（午後1時30分開場）

会場：市生涯学習センター2階 多目的ホール

定員：150名（申込順・申込先：当協会）

●保育あり（3歳以上未就学児5名まで・要申込）

●手話、要約筆記あり

デモ犬ジャーが
やってくる！

★12月11日（金）

盲導犬によるデモンストレーション
（1日2回／午前10：30、午後2：00）



忘れない！拉致問題

令和2年12月10日～16日は
**北朝鮮
人権侵害問題
啓発週間**



アニメ
「めぐみ」

令和2年12月11日（金）～12日（土）
午前10時～午後5時（随時放映）
市生涯学習センター1階
展示ホール（視聴無料）

昭和52年、当時中学1年生だった
横田めぐみさんが、学校からの帰宅
途中に北朝鮮当局に拉致された事件
を題材に、残された家族の苦悩や、
懸命な救出活動の様を描いたド
キュメンタリー・アニメを放映しま
す（約25分）。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため開催が変更となる場合がございます。ご了承ください。

令和2（2020）年度 人権週間記念事業 「人権啓発作品募集」

21世紀を「人権の世紀」とする取り組みが進められる中、市民一人ひとりが人権問題を「自分の問題」として捉え、お互いの人権を尊重し合う高槻市を築いていくことを目的に、人権啓発作品を募集します。奮ってご応募ください。

主催 高槻市

後援 高槻地区人権推進員企業連絡会・三島人権擁護委員協議会高槻地区委員会・
高槻市障害児者団体連絡協議会・高槻市職員労働組合・高槻市教職員組合

企画・運営 一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会



▲令和元年度絵画の部最優秀賞作品

- 募集部門
①作文（読書感想文を含む）→400字詰め原稿用紙4枚以内
②標語→形式・長さは自由
③絵画（ポスターを含む）
→手書きの場合：用紙サイズは画用紙4つ切、パソコン作成の場合：用紙サイズはA2サイズ以下。
*応募作品は未発表のオリジナル作品に限ります。原則、各部門1人1点とします。
- 作品テーマ 人権・平和に関わるテーマ
- 応募資格 市内に在住または通勤・通学・通園する人
- 募集期間 令和2（2020）年7月6日（月）～10月16日（金）必着
- 応募方法 応募票を作品の裏面に貼り付け、応募先へ郵送するか、直接お持ちください。
- 応募票 下記サイトでダウンロードするか、市内公共施設・当協会事務局でも用意をしています。

応募票ダウンロード

高槻市人権まちづくり協会ウェブサイト <https://www.takatsuki-jinmati.org>

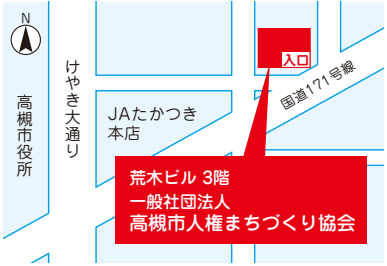
- 審査方法 審査委員会を構成し審査会を行い、部門別に入選作品を選定します。
入選された方には、11月中に、所属学校・園、ご本人に入選のご連絡をいたします。
- 表彰・展示 12月11日（金）・12日（土）に開催する「人権を考える市民のつどい」において、表彰式と展示を行います。入選者の表彰式は12月12日（土）に予定しています。入選作品は市立生涯学習センター1階・展示ホールで2日間展示する予定です。また、12月から来年2月にかけて市内公共施設で巡回展示します。
- 応募・問合せ 一般社団法人高槻市人権まちづくり協会
〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-6 荒木ビル3階
電話：072-647-7825／ファックス：072-647-7233

※表彰・展示は今後の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、変更となる場合がございます。ご了承ください。

協会事務所を
移転しました



〒569-0071
高槻市城北町1-14-6 荒木ビル3階
電話 072(647)7825
FAX 072(647)7233
(電話・FAXは変更なし)



編集後記

私の息子は身体に障がいをもっているが、周りの人に助け支えられ、自分なりの生き方を模索し、地域で暮らしている。体力の維持を心がけてきたが、最近では体調不良が続き、寝込むことも多くなった。以前のように電動車いすに乗り、日本橋やヨドバシカメラをかつぎ、大好きなパソコンや電子機器を見て回りたい。痛みや薬の副作用に苦しみながら人生を考えた末、自ら障がいと向き合うためにリハビリ入院を希望した。4月中旬、体調も心構えも万全に準備したが、入院の前日夜に発熱。「コロナの疑い」で入院は即取り消され、病院で門前払いされた。息子の一大決意が「コロナ」に阻まれ悔しくて涙が出た。

もし感染しているならば、感染源は私としか思い当たらず、焦る気持ちのまま家中いたるところ除菌、消毒をした。PCR検査や受診先がわからず、朝から保健所にかけ続けた電話がやっと夕方5時前につながった。詳細を伝えたところ「コロナの可能性は低いと思います」との返答。てっきり感染したと思い込み、右往左往していた私はこの言葉でようやく我に返った。

依然終息する気配もなく、日々自粛生活を心がけているが、もし自分や家族が感染したら世間はどう伝わるのか、どう思われるのかが怖い。人の目を気にし過ぎて冷静さを忘れ、不安に落ち込んでしまった経験でした。

人権連続講座を開催します

差別や暴力などをテーマに、講座を開催します。ぜひお越しください。


- 会 場**：クロスパル高槻（総合市民交流センター）7階第6会議室
*JR高槻駅中央出口の南側出ですぐ
- 定 員**：各回50名（要事前申し込み・先着順）
- 申込期間**：令和2年9月3日(月) 午前10時から（各講座開催日1週間前まで）
- 申 込**：（一社）高槻市人権まちづくり協会（下記）まで

手話
通訳

要約
筆記

あり

参加費：無料
1講座のみの参加でも
可能です

とき	講 師	テーマ	講演内容
10/2 金 午後2時～	 京都精華大学副学長 マンガ学部教授 よしむら かずま 吉村 和真さん	差別と向き合うマンガたち ～「黒人描写問題」を手がかりに～	マンガに描かれた登場人物たちの外見やセリフには、さまざまな先入観が潜んでいます。会場で作品と一緒に読みながら、「マンガと偏見の複雑な関係」について考えてみませんか。
10/9 金 午後2時～	 NPO法人コリアNGOセンター 事務局長 きむくわんみん 金 光敏さん	地域のささえ合いと 多文化共生 ～社会の担い手としての外国人住民～	新型コロナウイルス感染拡大の中で見えた多文化共生の課題。私たちが日常から持つべき視点について考えます。
10/16 金 午後2時～	 (一社)部落解放・ 人権研究所職員 こにし えりさ 小西 愛里紗さん	私と部落問題 ～部落差別は昔話じゃない～	「寝た子を起こすな」とはいうけれど…若者が考える部落問題を伝えます。
10/23 金 午後2時～	 エンパワメント・センター 主宰 もりた 森田 ゆりさん	DVと性暴力は感染症と同様に 世界の公衆衛生の敵	新型コロナウイルス感染症拡大防止でステイホームが促される中、DVや虐待などが明るみになりました。こどもや女性の命が危険に晒されている状況を伝えます。
10/30 金 午後2時～	 障害者問題資料センター りぼん社代表 こばやし としあき 小林 敏昭さん	閉ざされた扉を開く ～相模原障害者殺傷事件裁判が終わって～	世間を震撼させた津久井やまゆり園殺傷事件の裁判が終結しました。この事件を「怖かった事件」で終わらせず、本質的な障がい者の問題は何かを考えてみませんか。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため開催が変更となる場合がございます。ご了承ください。

編集発行／一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会 (☎647-7825)

「あくていぶ」は協会ホームページからもご覧になれます。https://www.takatsuki-jinmati.org/

高槻市人権まちづくり協会 検索



https://www.facebook.com/takatsuki.jinmati/